

特集：おらほの担い手

～ 農作業機械の過剰投資を抑えた、低コスト農業への取り組み ～

1. 地区のようす

松島東部地区は県の中央部（松島町）に位置し、丘陵性台地と吉田川に囲まれた低平農地が広がり、そのほとんどが水稲単作である。一部で複合経営（水稲＋畜産（繁殖牛、肥育牛））及び施設野菜（ほうれん草）に取り組んでいる。

平均経営面積は1.2haと零細であるため、専業あるいは地区内農業を牽引する農家への依存が高まり、平成19年度には品目横断的経営安定対策に対応するため集落間の合意により農業機械の共同化と基幹作業及び転作関連の受託を行う担い手として個別6戸と2組織を再編し、2つの新たな組織（松島前の沢生産組合、グリーンファーム松島）を設立し農地の集積を図っている。

事業名：経営体育成基盤整備事業（担い手育成型・区画整理）
 地区名：松島東部地区
 関係市町村：松島町
 関係土地改良区：鶴田川沿岸土地改良区
 工期：平成10年度～平成23年度
 受益面積：A=136.9ha
 農家戸数：115戸
 総事業費：2,589百万円
 農地集積率：49.3%(H23完了時)、62.3%(H27目標)



2. 事業の目的

この地域は、明治末期から昭和初期にかけて10a区画で整備されたが、水路は用排水兼用で農道も狭く、ほ場も分散し、機械の作業効率が悪く、近代的な農業経営を行う上で支障を来していた。

そのため現況の小規模水田を1haを目途とする大区画(1ha以上)及び標準区画(0.3～1.0ha)に整備するとともに、生産組織の育成を図り農地の流動化を促進することになった。

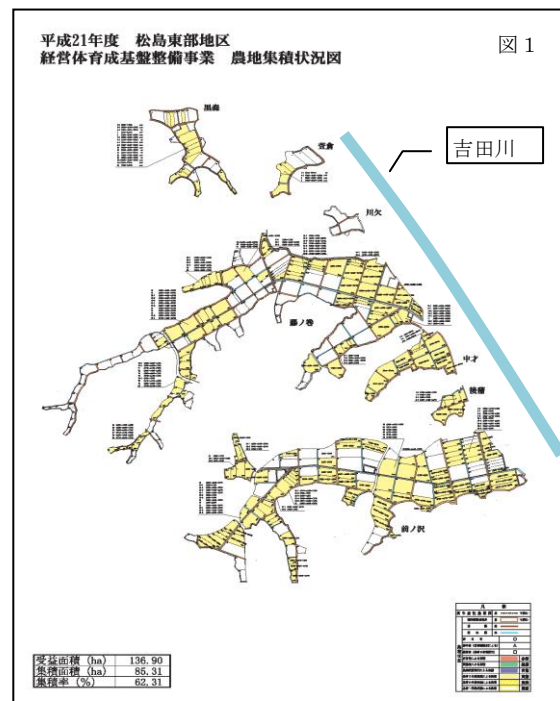
3. 事業の成果

この地区は、平成10年度に採択されて以来、数回にわたる担い手等の計画変更を行いながら、地元と町、JA、土地改良区など関係機関が一体となり地区の将来像を追求し、平成19年1月に農用地利用改善団体（松島東部地区農用地利用改善組合、松島東部北地区農用地利用改善組合）が設立され、同年3月、特定農業団体（松島前の沢生産組合、グリーンファーム松島）に認定された。

2組織の主要作物は水稲及び大豆とそばで、平成21年度の集積面積は85.3haで集積率は62.3%となっている。その内訳は、「松島前の沢生産組合」が40.9ha（29.9%）で「グリーンファーム松島」は44.4ha（32.4%）となっている。（図1）

■過去5年間の集積状況（地区全体）

年度	H16	H17	H18	H19	H20
集積面積	59.5ha	67.2ha	79.5ha	77.3ha	79.4ha
集積率	40.3%	45.6%	53.9%	56.5%	58.0%



4. 今回紹介する担い手「グリーンファーム松島」

今回は、地区内に2つ在る生産組織の中から「グリーンファーム松島」の取り組みを紹介します。

当組織の設立は、平成15年度の面整備を契機として、集落農家全戸（約80戸）が加入する「松島東部北転作組合」の集団転作の実働部隊として「松島東部北生産組合」が結成され、事業に伴う事前事後転作を実施、面工事が終了した平成18年度からは集団転作物を大豆に一本化し、ブロックローテーションも始まり、平成19年1月には参加農家16戸、オペレーター5人で「松島東部北生産組合」を再編し、「グリーンファーム松島」が新たな担い手組織として設立された。

組織の体制は、3つの作業班（転作・稲作・機械）に分かれ、その活動は、基本的に転作大豆栽培が中心で、主な作業としては播種、耕培土や除草、収穫等である。

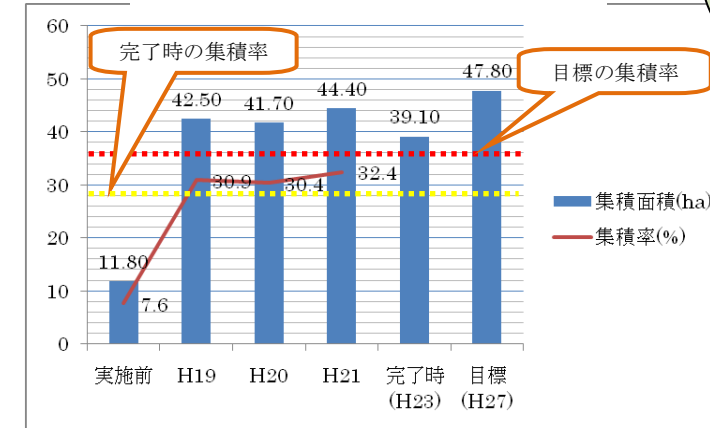
地権者から借りたほ場は、転作後、畦畔の漏水が無いように畦塗り作業を行い、信頼関係の構築に努めている。

また、安全作業を第一に大型特殊免許の取得を奨励しており、誰もが何時でも作業できる体制を目指している。

(1) 経営面積(H21)

水稲 20.3ha（作付け割合 45.7%）
 大豆転作 22.5ha（作付け割合 50.7%）
 飼料用米 1.6ha（作付け割合 3.6%）
 計 44.4ha（作付け割合 100.0%）

図 「グリーンファーム松島」の集積の推移



「グリーンファーム松島」の集積計画は、完了時の28.6%を既に上回っているが、目標は34.9%であり、その早期達成に向けた取り組みとして水稲部分の拡大が急がれる。

組織の年度別集積状況			
年度	H19	H20	H21
集積面積	42.5ha	41.7ha	44.4ha
集積率	30.9%	30.4%	32.4%
うち大豆作付	25.6ha	23.9ha	22.5ha
大豆収量(10a当たり)	120kg	120kg	150kg

(2) 機械の装備

- ①トラクター 2台（32馬力＋53馬力）※リースは高いので中古を購入
- ②大豆用コンバイン 2台（2条刈り）
- ③播種機 2台（大豆用）
- ④畦塗り機 1台
- ⑤弾丸暗渠機 1台
- ⑥ブロードキャスター 1台

※これ以外の機械装備（トラクター、田植機、乾燥機等）は、経費を抑えるため構成員からの借り上げで対応している。



倉庫と大豆コンバイン

(3) 営農技術の特徴

- ①排水対策を徹底し、湿害を軽減するため、全ほ場で大豆播種前に弾丸暗渠を行う。
- ②さらに湿害を抑えるため播種機に簡易の畝立機（角材*写真）を取り付け、小畦立て播種を行う。
- ③雑草対策では、除草剤散布の適期を逃さないように播種直後に散布する。
- ④その後、除草と湿害防止対策を兼ねた培土作業を1回行う。
- ⑤特に高品質大豆の生産に向け、大豆専用コンバイン使い収穫時の汚損粒の発生を防いでいる。

⑥転作の方法は、3年体系（水稲→水稲→大豆）のブロックローテーションで行っている。
なお、組織の平成21年産大豆の収量は昨年度より25%増加し10a当たり平均150kg（全国平均158kg、宮城県157kg、松島町120kg）となった。

組合長の遠藤さんは、「低平地で大豆の収量と品質を上げることは大変であるが、研修等で得た情報や仲間との話し合いの場から改良を重ね、年々収量上がるよう技術の向上に力を入れたい。また、これからの営農と法人化を目指す上で、とにかく若い担い手に経験を積ませ育てることが大切。さらに町全体をカバーできるようなライスセンターを組合で所有したい。」と意気込む。

あつめよう

”農地集積でより良い営農を築こう“



播種機へのコーティングした種子の補給作業



角材で作った畝立て機具



播種作業



除草剤散布作業



… 特定農業団体「グリーンファーム松島」の仲間達…
(前列中央が組合長の遠藤正春さん)



順調に育つ大豆

■農地集積アドバイザー派遣日程

月日	時間	アドバイザー	開催場所	会議名等	主催者
8/10	13:30	佐藤 清一	石巻合同庁舎501会議室	石巻管内農業農村整備事業担当者会議	東部地方振興事務所
8/11	13:30	白鳥 正文	仙台合同庁舎202会議室	第1回農地集積研修会	仙台地方振興事務所

【問い合わせ先】

〇水土里ネットみやぎ（宮城県土地改良事業団体連合会）
農地集積センター
〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目2番8号 TEL:022-263-5815 FAX:022-268-6390
【ホームページURL】<http://www.mlw.or.jp/center/>

農地集積に関する各地の主な行事(実績と予定)

<実施>

- 北部地方農地集積指導チーム：6月16～7月2日 大崎地域農業農村活性化推進会議を実施
- 栗原地域農地集積指導チーム：6月28日～7月1日 第2回農地集積戦略会議を実施
- 登米地域農地集積指導チーム：6月18日 第1回登米地域農地集積担当者会議を実施
- 東部地方農地集積指導チーム：7月16日～28日 第1回農地集積戦略会議を実施
- 農村整備課：7月20日 第1回農地集積研修会を実施

<予定>

- 大河原地方農地集積指導チーム：8月9日～10日 農地集積活動計画検討会を予定
- 仙台地方農地集積指導チーム：8月11日 第1回農地集積研修会を予定
(農地集積アドバイザーの白鳥正文氏が講師)
- 登米地域農地集積指導チーム：7月29日、8月3日、5日 農村活性化推進会議を予定
- 東部地方農地集積指導チーム：8月10日 石巻管内ほ場整備事業担当者会議を予定
(農地集積アドバイザーの佐藤清一氏が講師)
- 宮城県農業公社：各地区で開催された農地集積戦略会議等へ参加
- 農地集積センター：各地区で開催された農地集積戦略会議等へ参加